

TEISO TOYOKA NEWS

2015年9月号 VOL.80

企画・発行：(株)テイソートヨカ 四日市技術研究所
掲載している記事の無断使用を禁じます。〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

夕焼け小焼けの赤トンボ

暑い夏も終わり、日が落ちるのもだんだんと早くなってまいりました。涼しい風を浴びながら見る夕暮れは、季節の移り変わりを感ぜさせてくれます。今月はそんな夕暮れ時により一層秋を感じさせてくれる赤トンボについてご紹介します。

赤トンボは、童謡の「赤とんぼ」にも登場するように、私たちにとって非常に身近な昆虫だと思います。赤く染まった夕暮れ時に群れで飛んでいる姿は綺麗で、ノスタルジーを感じます。日本には約200種のトンボが知られています。赤トンボと呼ばれるものはアカネ属に属するトンボを言います。中でも、全国で普通にみられるアキアカネ(写真1)という種が赤トンボとして一番有名です。アキアカネは、体長40mm程度の中型の赤トンボで、赤くなるのは腹部だけで頭と胸は赤くならないのが特徴です。実はこのアキアカネですが、初夏にあたる6~7月にすでに羽化しています。ただ、夏の間は暑さを避けるために山中に移動しているため、主に平地で暮らしている私たちは目にしないのです。山中へ移動したアキアカネたちはその間に餌をたくさん食べることで、未成熟時はオレンジ色だったのが、写真1のように成熟して赤くなります。そして、気温が下がってくる秋に再び交尾と産卵のために平地に帰ってきます。



写真1 アキアカネ



写真2 ウスバキトンボ

この未成熟時のアキアカネの形態によく似たトンボがいます。ウスバキトンボ(写真2)です。ウスバキトンボはウスバキトンボ属の1種なので、赤トンボではありません。このトンボは、もともと気温の高い熱帯・亜熱帯の海外に分布しています。日本へは海を渡って飛来し、お盆頃から気温が低くなる晩秋まで見られます。見た目は似ていますが、アキアカネの平地に出現する経路とは全く違うのです。アキアカネとの形態的な違いは、後翅の先端に小さな模様があること(写真2 赤丸)、胸の黒い模様がアキアカネほどはっきりしないこと

(写真3 赤丸)などがあります。実際に皆様の近くで飛んでいるトンボがこういった種類なのか調べてみるのも、その種の生態などの新しい発見があって面白いかもしれません。(I.R.)



写真3 ウスバキトンボ(胸部拡大)



今月のオススメ① 食中毒対策にご用達！「サイプレスクリア」&「G2TAMαプラス」

気温はだんだんと低くなってきましたが9月に入ってもなお、食中毒が世間を騒がせています。食中毒の多くは未加熱の食品や手からの2次汚染により感染します。感染源となりやすい手指や調理台、冷蔵庫、調理器具をよく洗ったうえ、下にご紹介する消毒スプレーを使って十分な対策をとりましょう！

手指消毒に サイプレスクリア

手指消毒のためのアルコール製剤です。サイプレスクリアにはアルコールの他に天然由来成分“ヒノキチオール”が配合されています。そのため、即効性と速乾性はもちろん抗菌持続力も発揮します。また、水場でも強い効果を示します。食品添加物として認可されているので、ご家庭・病院・介護施設・食品工場・厨房・ホテル・アミューズメント施設などあらゆるシーンで安心して使用できます。

大豆パワーの除菌・抗菌・消臭スプレー G2TAMαプラス

調理台や冷蔵庫、調理器具、その他除菌・抗菌したい様々なところに使えます。主成分が大豆アミノ酸なので安全性が非常に高く、消臭力にも定評があります。インフルエンザウイルスやノロウイルスにも有効です！

★★サイプレスクリア、G2TAMαプラスに関するお問い合わせはテイソートヨカ(TEL: 052-891-8311)まで！★★



自然の復元力 Vol. 61

今年も自然災害がいくつも発生しました。火山の噴火、台風の襲来、記録的な集中豪雨(土砂災害・洪水・竜巻被害など)があげられるでしょうか。各地で 35℃以上の猛暑日が連日記録され、今年は今までと違った夏に戸惑った夏でした。加えて、地震も津波もありました。このような様々な今年の自然災害は、新潟地震、東日本大震災、広島土砂災害等の復興がいまだにままたまならない地域でも起こり、生々しい深い傷跡を残しています。的確な、そして、速やかな復興施策を講じて、一日も早く災害に強い日本にすることが望まれます。

2015年9月19日、近畿地域は雨が降りました。所用で町に出たところ、カエデやイチヨウなどの広葉樹が葉を緑から黄色に変えているのが目につきました。今年も秋分の日(9月23日)を過ぎ、年はめぐり、秋が確実に近くに来ているのを知らされました。秋分の日はおおよそのところ昼と夜の時間がほぼ等しくなる日です。この日以降は昼の時間が短くなります。 Deng 熱媒介蚊のヒトスジシマカの卵が冬眠に入る時期です。

ところで、昨年大騒ぎになった Deng 熱の今年の国内感染はどうなったのでしょうか？ 幸いなことに今年は国内感染がないようです。昨年の国内感染症例は、東京都の代々木公園で Deng 熱感染蚊に 8月20日刺されて感染し、8月26日に発症した人が初症例になり、その後 161名の方々が国内で Deng 熱を発症されました。今年は今のところ国内感染の Deng 熱患者は報告されていないので、今年の国内感染 Deng 熱患者はもう出ないと思われまます。昨年と同様な Deng 熱の国内感染例が出ていない理由は、少なくとも昨年の感染場所における媒介蚊対策が徹底され、感染蚊の発生を無くすことに成功した結果ではないかと思われまます。また、台湾や東南アジアで流行の Deng 熱はネッタイシマカによるものですが、我が国では南西諸島を除き、ネッタイシマカの生息はなく、我が国の国内感染は媒介者がヒトスジシマカであったことも有利に働いたのではないかと考えまます。その理由は、ネッタイシマカよりもヒトスジシマカの方は薬剤抵抗性問題がなく、殺虫剤の効果が期待できること、Deng 熱ウイルスはヒトスジシマカが経卵感染を事実上しないこと、そして、ヒトスジシマカは卵越冬するので、日本では冬場に Deng 熱を断ち切ることが出来ていること、などが挙げられまます。

しかしながら、Deng 熱の病原体の日本への侵入リスクは高まっています。というのは、日本人の Deng 熱輸入症例数は 9月初旬までに 190人(昨年 179人)を数えまます。また、外国人訪日者数は、2015年1~7月の間で 1,100万人に達し、8月も昨年の同月比 63.8%増の 181万7千人が記録されました。これらから、Deng 熱病原体の日本への侵入リスクは、昨年と同等以上に高いと思われまます。台湾での流行は毎年持ち込まれるネッタイシマカによって流行が繰り返されています。台湾の Deng 熱患者は 2015年9月16日で 1万364人に達したそうです。我が国での Deng 熱が流行しないように、平常時の媒介蚊対策の重要性を認識し、教育を通じた活動、地域社会での活動を図る時期にきているように思われまます。(Sin)



今月のオススメ② 嘔吐物・汚物の処理が大変！…そんな時には「オブツポイポイ」

今月のオススメ①のような対策をしたとしても、食中毒になる場合も考えられまます。食中毒になると、吐き気を催し、嘔吐してしまうこともあるでしょう。食中毒による嘔吐物にはウイルスや細菌が含まれているので、さらなる感染拡大を防ぐためにも処理はしっかりしたいものです。でもその処理が大変…。そんな時には「オブツポイポイ」が解決してくれます。もちろん、嘔吐物以外の汚物にも使えまます！

嘔吐物・汚物の処理剤 オブツポイポイ

嘔吐物・汚物にふりかけるだけの手軽に使える処理剤です。嘔吐物・汚物をスピーディに固めてくれて、さらに嫌な臭いも消臭してくれる超スグレモノ。固まったら燃えるゴミとして捨てることができます。

★☆☆オブツポイポイにつきましては、弊社 HP からお問い合わせ下さい☆☆★



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理
株式会社テイソートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析
有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラバト飛来防止施工

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 2 丁目 334 番地の 2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市中村区千成通 4 丁目 18 番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小籠町島 4 丁目 61 番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町タ 47 番地 1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
富山営業所	〒939-8261	富山県富山市萩原 42 番地 1	TEL 076-481-6474	FAX 076-481-6471
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上所中 2 丁目 1 番 7 号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430